



東北大学

スポーツ庁「運動部活動の地域移行に関する検討会議」第2回 ヒアリング資料
2021年12月2日 13:30-15:30

教員の勤務実態 からみた部活動

東北大学大学院教育学研究科
教授 青木栄一

無断引用禁止

自己紹介

- 博士（教育学）
- 研究分野：教育行政学
- 研究テーマ：教員のワークライフバランス
- 文部科学省教員勤務実態調査（2006年）
- 文部科学省教員勤務実態調査（2016年）
- 中央教育審議会専門委員（初等中等教育分科会学校における働き方改革特別部会）



[出所] ベネッセ教育総合研究所ウェブサイト、Amazonウェブサイト

長時間労働は健康に悪影響を与える

■2016年に74万5千人が過労死

➤COVID-19累計死者500万人

■身体的リスク

➤週55時間以上労働する人は、
週35-40時間労働する人と比べて

脳卒中リスク：35%高い

虚血性心疾患リスク：17%高い

Long working hours increasing deaths from heart disease and stroke: WHO, ILO

17 May 2021 | Joint News Release | Geneva | Reading time: 2 min (626 words)

Long working hours led to 745 000 deaths from stroke and ischemic heart disease in 2016, a 29 per cent increase since 2000, according to the latest estimates by the World Health Organization and the International Labour Organization published in *Environment International* today.

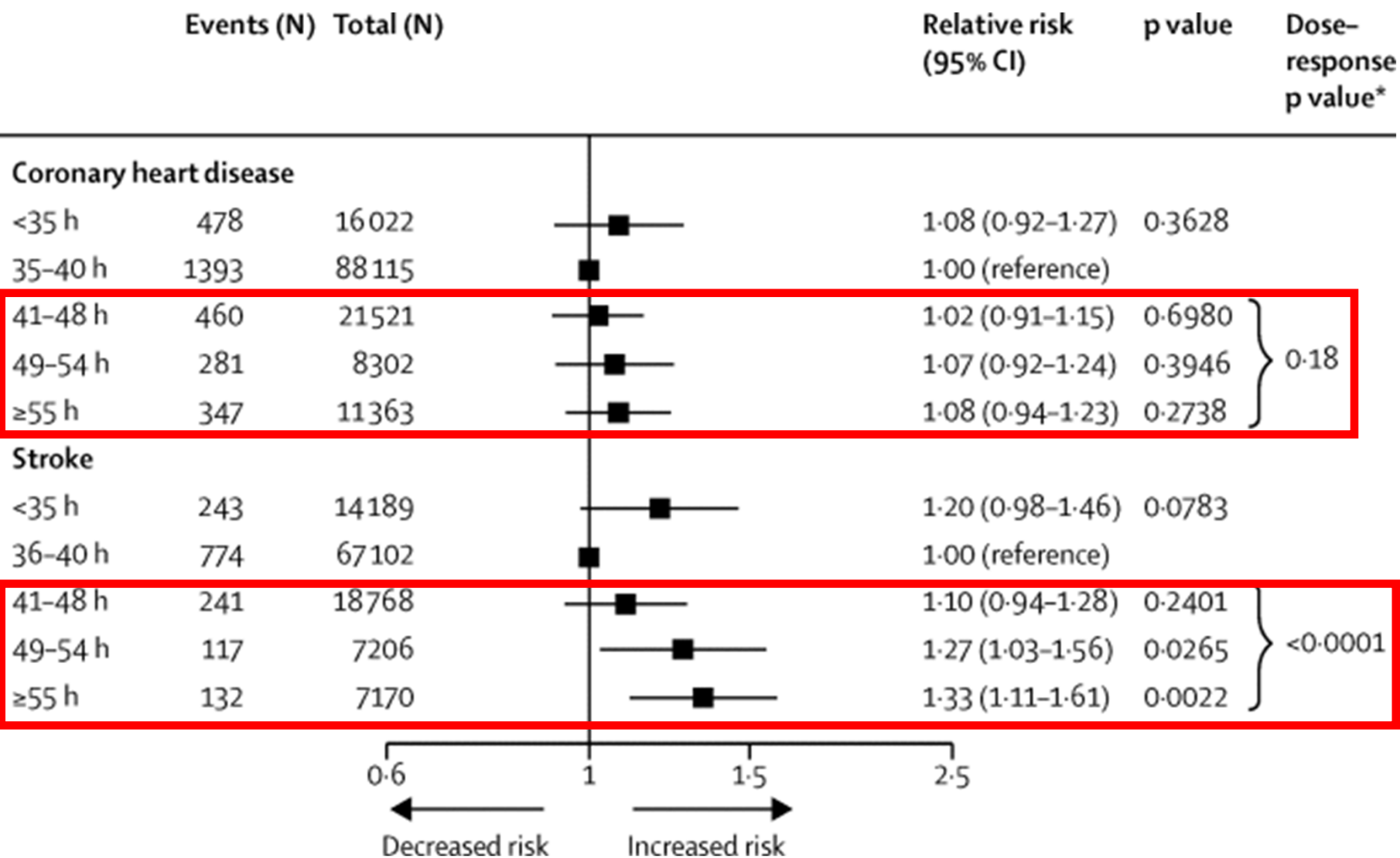
In a first global analysis of the loss of life and health associated with working long hours, WHO and ILO estimate that, in 2016, 398 000 people died from stroke and 347 000 from heart disease as a result of having worked at least 55 hours a week. Between 2000 and 2016, the number of deaths from heart disease due to working long hours increased by 42%, and from stroke by 19%.

This work-related disease burden is particularly significant in men (72% of deaths occurred among males), people living in the Western Pacific and South-East Asia regions, and middle-aged or older workers. Most of the deaths recorded were among people dying aged 60-79 years, who had worked for 55 hours or more per week between the ages of 45 and 74 years.

With working long hours now known to be responsible for about one-third of the total estimated work-related burden of disease, it is established as the risk factor with the largest occupational disease burden. This shifts thinking towards a relatively new and more psychosocial occupational risk factor to human health.

The study concludes that working 55 or more hours per week is associated with an estimated 35% higher risk of a stroke and a 17% higher risk of dying from ischemic heart disease, compared to working 35-40 hours a week.

[出所] WHO (2021) [Long working hours increasing deaths from heart disease and stroke: WHO, ILO.](#)



Kivimäki, M. *et al.* (2015). Long working hours and risk of coronary heart disease and stroke: a systematic review and meta-analysis of published and unpublished data for 603,838 individuals. *Lancet*, 386(10005), 1742 (Fig.4).

長時間労働は何を引き起こすか？

■研修医を対象とした研究

➤ 教員と同じヒューマンサービス従事者

➤ 長時間労働（Traditional Schedule）の方が医療ミス（赤枠部分）が多い

⇒ 労働時間の見直しをすると改善

Landrigan, C. P., Cronin, J. W., Katz, J. T., & Bates, D. W. (2004). Effect of Reducing Interns' Work Hours on Serious Medical Errors in Intensive Care Units. *The New England Journal of Medicine*, 11.

Variable	Traditional Schedule	Intervention Schedule	P Value
<i>no. of errors (rate/1000 patient-days)</i>			
Serious medical errors made by interns			
Serious medical errors	176 (136.0)	91 (100.1)	<0.001
Preventable adverse events	27 (20.9)	15 (16.5)	0.21
Intercepted serious errors	91 (70.3)	50 (55.0)	0.02
Nonintercepted serious errors	58 (44.8)	26 (28.6)	<0.001
Types of serious medical errors made by interns			
Medication	129 (99.7)	75 (82.5)	0.03
Procedural	11 (8.5)	6 (6.6)	0.34
Diagnostic	24 (18.6)	3 (3.3)	<0.001
Other	12 (9.3)	7 (7.7)	0.47
All serious medical errors, unit-wide			
Serious medical errors	250 (193.2)	144 (158.4)	<0.001
Preventable adverse events	50 (38.6)	35 (38.5)	0.91
Intercepted serious errors	123 (95.1)	63 (69.3)	<0.001
Nonintercepted serious errors	77 (59.5)	46 (50.6)	0.14
Types of serious medical errors, unit-wide			
Medication	175 (135.2)	105 (115.5)	0.03
Procedural	18 (13.9)	11 (12.1)	0.48
Diagnostic	28 (21.6)	10 (11.0)	<0.001
Other	29 (22.4)	18 (19.8)	0.45

部活動のやりすぎは生徒の健康を損ない、競技者生命を脅かす

10保-12-口-14

9月12日(木) 10:35 会場: 独立館 D413

練習時間と主観的運動強度の関係性の分析

大学アメリカンフットボール部を対象に傷害件数の観点から

★佐藤 友寛 (東海大学大学院) 岡崎 勝博 (東海大学)

近年我が国における運動部活動は「ブラック部活動」と言われるように多くの課題が問題視されている。スポーツ庁では部活動改革を掲げ平成30年3月に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を打ち出した。ガイドラインには「過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高める」とある。しかし傷害の予防するためには活動時間や休養日の設定だけではなく練習強度の管理が必要である。本研究ではT大学のアメリカンフットボール部76名を対象に練習時間、主観的運動強度(RPE)、傷害件数を5月1日～11月31日までの7カ月間調査し、練習時間と運動強度の関係、練習時間と傷害件数の関係、主観的運動強度と傷害件数の関係を分析して練習時間に増加のおよその転換点であり、RPEが4を示すと

■骨・関節系理学療法 5

79 高等学校空手道選手におけるスポーツ傷害について

高橋晃弘¹⁾、樋口謙次²⁾、大澤智恵子²⁾、中山恭秀³⁾

1) 介護老人保健施設 フェニックス那珂, 2) 東京慈恵会医科大学 リハビリテーション科, 3) 東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科

key words 空手道・スポーツ傷害・アンケート調査

【はじめに】スポーツ外傷・障害(以下傷害)における競技復帰を目指したりハビリテーションや、スポーツ傷害の予防を考える上で傷害の特性を知ることは重要である。しかし、空手道における傷害調査の報告は少ない。今回、高等学校空手道部員を対象として、傷害状況と傷害に影響する要因を調査し若干の知見を得たので報告する。【対象と方法】対象は茨城県下の高等学校空手道部員で平成15年7月21日に開催されたリーダー講習会の参加者16校110名(男性75名、女性35名)とした。事前にアンケートに対する説明を行ない、同意を得た。調査項目として(1)基礎データ(年齢、性別、身長、体重、1

影響のある傷害は44%であった。内訳は痛み33%、パフォーマンスの低下8%、可動域制限2%、再発しやすい1%であった。痛みの中で10名が「逆突き」という特定の動作で腰部に痛みを訴えており、全員が腰痛症・椎間板ヘルニアであったという興味深い結果が得られた。傷害に対してストレッチングやアイシング、テーピングなど自己管理を行なっている者は33%であった。判別分析では判別係数で年齢0.7、1日の練習時間0.43、性別0.37、経験年数0.13、身長0.12と正の相関、1ヶ月間の休日数-0.15、体重-0.09と負の相関が認められた。判別の中率は71.3%であった。

【原著】

青年期の剣道競技者における疼痛の有症状況に関する記述疫学的研究

廣野 準一¹⁾ 藁科 侑希²⁾ 西田 智³⁾ 津賀 裕喜⁴⁾
小田 桂吾⁵⁾ 大垣 亮⁶⁾ 鍋山 隆弘²⁾ 向井 直樹²⁾

1) 信州大学学術研究院総合人間科学系 2) 筑波大学体育系 3) 福岡大学スポーツ科学部
4) 帝京平成大学健康医療スポーツ学部 5) 仙台大学体育学部体育学科
6) 帝京平成大学現代ライフ学部経営マネジメント学科

【要約】目的: 高校と大学の剣道競技者を対象に競技に関連する疼痛を調査し、年代ごとの有症状況や

と。専門部に所属する高校9校327名、全国の学生剣道連盟質問紙にて、疼痛経験の有無とその詳細、対象者の特徴を在籍してから質問紙記入時までの剣道部活動中に発症

であり、有効回答率は54.7%であった。各年代の疼痛有った。有症率は、大学より高校で、高校年代で男性より女性より高校で、練習時間は高校年代で男性より女性で有症率は82.4%で、そのうちの受診率は44.1%であった。急。疼痛部位は、高校では足部/足趾、手関節、腰部/骨。腰部/骨盤/仙骨に多かった。練習時間や頻度が影響する可能性が考えられた。また、がらも、医療機関を受診しない者が多いという現状が示

i, 慢性疼痛

2016年文部科学省教員勤務実態調査にみる部活動業務

教員勤務実態調査（平成28年度）集計【確定値】～業務内容別の学内勤務時間（1日当たり）～

- 平日については、小学校では、授業(27分)、学年・学級経営(9分)が、中学校では、授業(15分)、授業準備(15分)、成績処理(13分)、学年・学級経営(10分)が増加している。
- 土日については、中学校で部活動(1時間3分)、成績処理(10分)が増加している。

平日(教諭のみ)	小学校			中学校		
	28年度	18年度	増減	28年度	18年度	増減
朝の業務	0:35	0:33	+0:02	0:37	0:34	+0:03
授業(主担当)	4:06	3:58	+0:27	3:05	3:11	+0:15
授業(補助)	0:19			0:21		
授業準備	1:17	1:09	+0:08	1:26	1:11	+0:15
学習指導	0:15	0:08	+0:07	0:09	0:05	+0:04
成績処理	0:33	0:33	±0:00	0:38	0:25	+0:13
生徒指導(集団)	1:00	1:17	-0:17	1:02	1:06	-0:04
生徒指導(個別)	0:05	0:04	+0:01	0:18	0:22	-0:04
部活動・クラブ活動	0:07	0:06	+0:01	0:41	0:34	+0:07
児童会・生徒会指導	0:03	0:03	±0:00	0:06	0:06	±0:00
学校行事	0:26	0:29	-0:03	0:27	0:53	-0:26
学年・学級経営	0:23	0:14	+0:09	0:37	0:27	+0:10
学校経営	0:22	0:15	+0:07	0:21	0:18	+0:03
職員会議等	0:20			0:19		
個別打ち合わせ	0:04	0:31	-0:07	0:06	0:29	-0:04
事務(調査回答)	0:01			0:01		
事務(学納金)	0:01	0:11	+0:06	0:01	0:19	±0:00
事務(その他)	0:15			0:17		
校内研修	0:13	0:15	-0:02	0:06	0:04	+0:02
保護者・PTA対応	0:07	0:06	+0:01	0:10	0:10	±0:00
地域対応	0:01	0:00	+0:01	0:01	0:01	±0:00
行政・関係団体対応	0:02	0:00	+0:02	0:01	0:01	±0:00
校務としての研修	0:13	0:13	±0:00	0:12	0:11	+0:01
校外での会議等	0:05	0:05	±0:00	0:07	0:08	-0:01
その他校務	0:09	0:14	-0:05	0:09	0:17	-0:08

土日(教諭のみ)	小学校			中学校		
	28年度	18年度	増減	28年度	18年度	増減
朝の業務	0:02	0:00	+0:02	0:01	0:00	+0:01
授業(主担当)	0:07			0:03		
授業(補助)	0:01	0:00	+0:08	0:00	0:00	+0:03
授業準備	0:13	0:04	+0:09	0:13	0:05	+0:08
学習指導	0:00	0:00	±0:00	0:01	0:00	+0:01
成績処理	0:05	0:01	+0:04	0:13	0:03	+0:10
生徒指導(集団)	0:02	0:00	+0:02	0:01	0:00	+0:01
生徒指導(個別)	0:00	0:00	±0:00	0:01	0:00	+0:01
部活動・クラブ活動	0:04	0:02	+0:02	2:09	1:06	+1:03
児童会・生徒会指導	0:00	0:00	±0:00	0:00	0:00	±0:00
学校行事	0:09	0:01	+0:08	0:11	0:02	+0:09
学年・学級経営	0:03	0:00	+0:03	0:04	0:01	+0:03
学校経営	0:03	0:01	+0:02	0:03	0:01	+0:02
職員会議等	0:00			0:00		
個別打ち合わせ	0:00	0:00	±0:00	0:00	0:00	±0:00
事務(調査回答)	0:00			0:00		
事務(学納金)	0:00	0:00	+0:02	0:00	0:02	±0:00
事務(その他)	0:02			0:02		
校内研修	0:01	0:00	+0:01	0:00	0:00	±0:00
保護者・PTA対応	0:03	0:02	+0:01	0:03	0:02	+0:01
地域対応	0:02	0:00	+0:02	0:01	0:01	±0:00
行政・関係団体対応	0:00	0:00	±0:00	0:00	0:00	±0:00
校務としての研修	0:00	0:00	±0:00	0:01	0:00	+0:01
校外での会議等	0:00	0:00	±0:00	0:01	0:00	+0:01
その他校務	0:01	0:01	±0:00	0:04	0:03	+0:01

※18年度調査と同様に、1分未満の時間は切り捨てて表示。

長時間労働を左右するのは部活動

表 4-4 週 60 時間以上／未満勤務時間別 教諭の勤務時間内訳（中学校）

中学校	平日			土日		
	60時間以上	60時間未満	差分	60時間以上	60時間未満	差分
回答数	3699	2721		3699	2721	
a 朝の業務	0:37	0:36	0:01	0:02	0:00	0:02
b1 授業（主担当）	3:08	3:01	0:07	0:05	0:01	0:04
b2 授業（補助）	0:19	0:24	-0:05	0:00	0:00	0:00
c 授業準備	1:33	1:18	0:15	0:20	0:03	0:17
d 学習指導	0:10	0:09	0:01	0:01	0:00	0:01
e 成績処理	0:43	0:32	0:11	0:20	0:02	0:18
f 生徒指導（集団）	1:05	0:58	0:07	0:02	0:00	0:02
g 生徒指導（個別）	0:20	0:15	0:05	0:01	0:00	0:01
h 部活動・クラブ活動	0:51	0:27	0:24	3:21	0:31	2:50
i 児童会・生徒会指導	0:07	0:05	0:02	0:01	0:00	0:01
j 学校行事	0:33	0:19	0:14	0:18	0:02	0:16
k 学年・学級経営	0:43	0:30	0:13	0:06	0:01	0:05
l 学校経営	0:23	0:19	0:04	0:05	0:00	0:05
m1 職員会議・学年会などの会議	0:20	0:18	0:02	0:00	0:00	0:00
m2 個別の打ち合わせ	0:08	0:05	0:03	0:00	0:00	0:00
n1 事務（調査への回答）	0:01	0:01	0:00	0:00	0:00	0:00
n2 事務（学納金関連）	0:01	0:01	0:00	0:00	0:00	0:00
n3 事務（その他）	0:19	0:14	0:05	0:04	0:00	0:04
o 校内研修	0:06	0:05	0:01	0:00	0:00	0:00
p 保護者・PTA対応	0:11	0:07	0:04	0:04	0:00	0:04
q 地域対応	0:01	0:00	0:01	0:02	0:00	0:02
r 行政・関係団体対応	0:02	0:01	0:01	0:00	0:00	0:00
s 校務としての研修	0:11	0:12	-0:01	0:01	0:00	0:01
t 会議・打合せ（校外）	0:07	0:07	0:00	0:02	0:00	0:02
u その他の校務	0:09	0:10	-0:01	0:06	0:01	0:05
v 休憩	0:02	0:06	-0:04	0:00	0:00	0:00
w その他	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
合計	12:19	10:28	1:51	5:14	0:51	4:23

※勤務時間については、小数点以下を切り捨てて表示。

※「教諭」について、主幹教諭・指導教諭を含む。

※合計時間に休憩は含まない。また、小数点以下を切り捨てて表示しているため、各業務の合計が合計時間にはならない。

技能保持と心理的負担

③部活動に必要な技能による比較

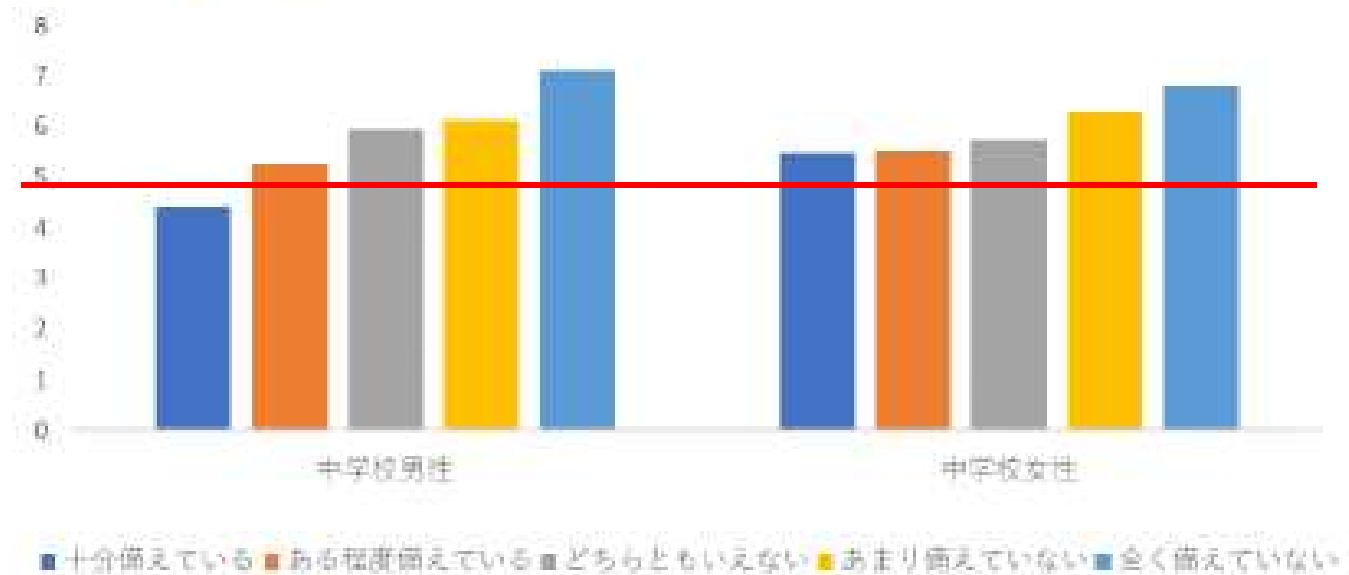


図 7-8 部活動に必要な技能を備えているかによる K6 平均値

土日の部活動の増加

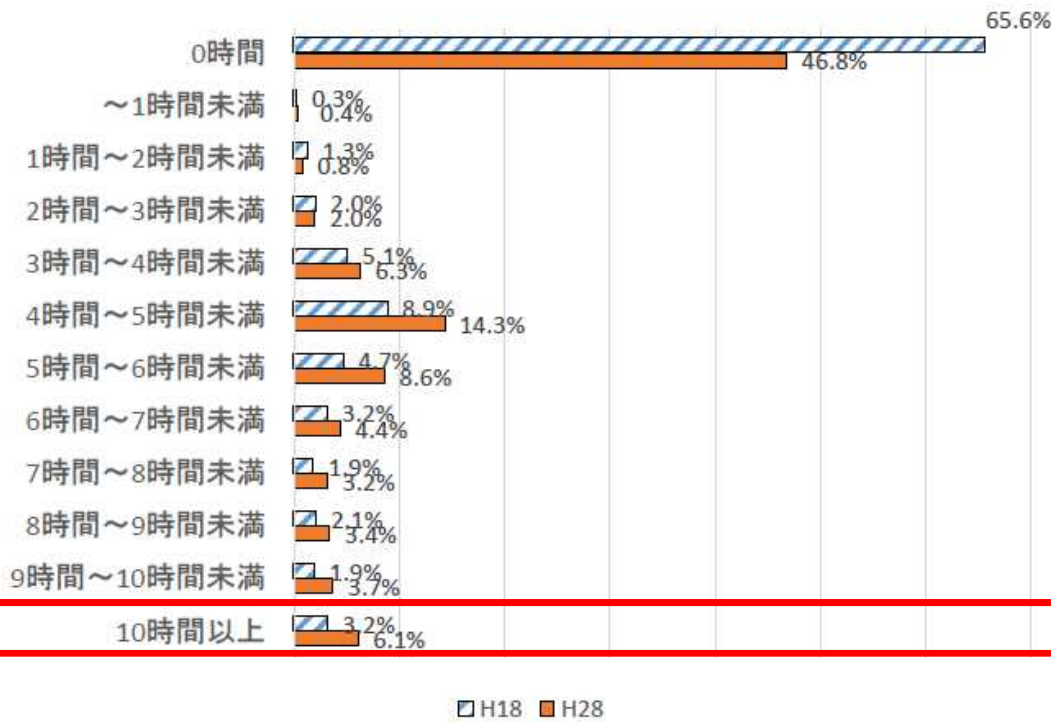


図 6-5 部活動の1日当たりの活動時間（土曜日 運動部顧問）

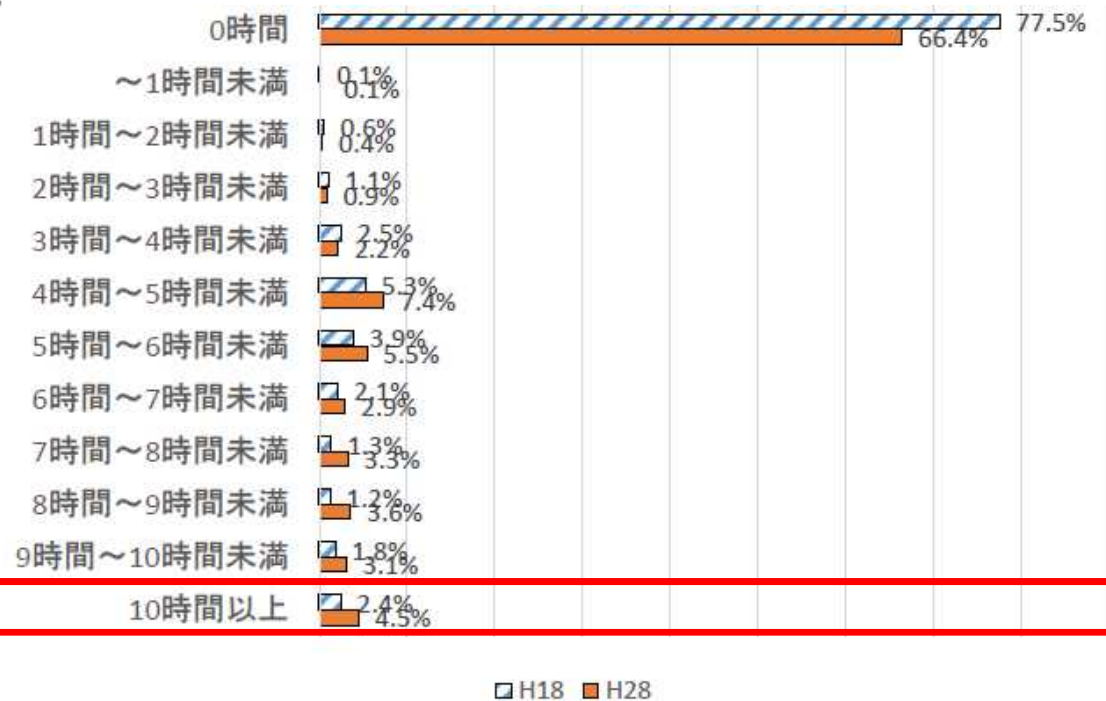


図 6-6 部活動の1日当たりの活動時間（日曜日 運動部顧問）

部活動業務時間と過労死ライン

- 部活動業務時間
 - 平日1日あたり41分
 - 土日1日あたり2時間9分（→すべて「残業」）
 - 単純計算で1週間で7時間43分、1ヶ月（4週間）で30時間52分
- 中学校教諭の1週間の勤務時間
 - 平均勤務時間：63時間20分
 - 残業時間：24時間35分（63時間20分－38時間45分）
- 文科省「残業ガイドライン」は1ヶ月45時間（1週間11時間15分）
- 「過労死ライン」は1ヶ月80時間（1週間20時間）
- ガイドラインに収めるには部活動全廃しても足りない
 - 24時間35分－7時間43分＝16時間52分

部活動指導員

- 総務省の専門スタッフ調査
- 設置者たる教育委員会が部活動指導員の設置状況を左右する

学校における専門スタッフ等の活用に関する調査

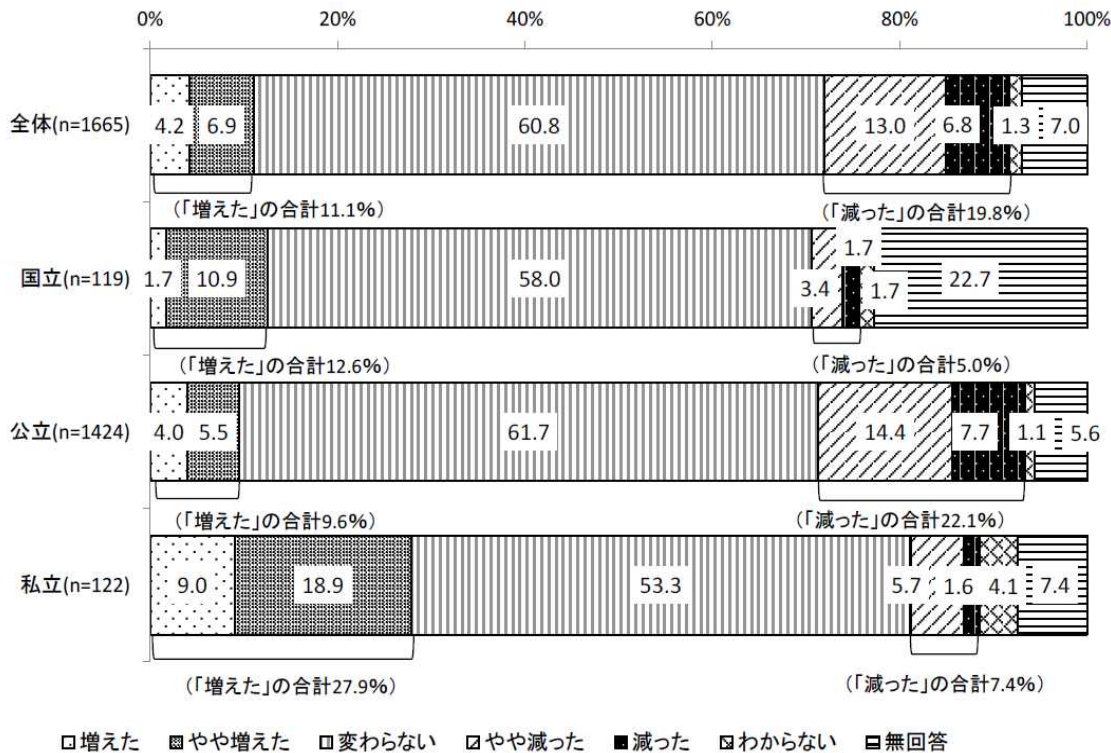
結果報告書

令和 2 年 5 月

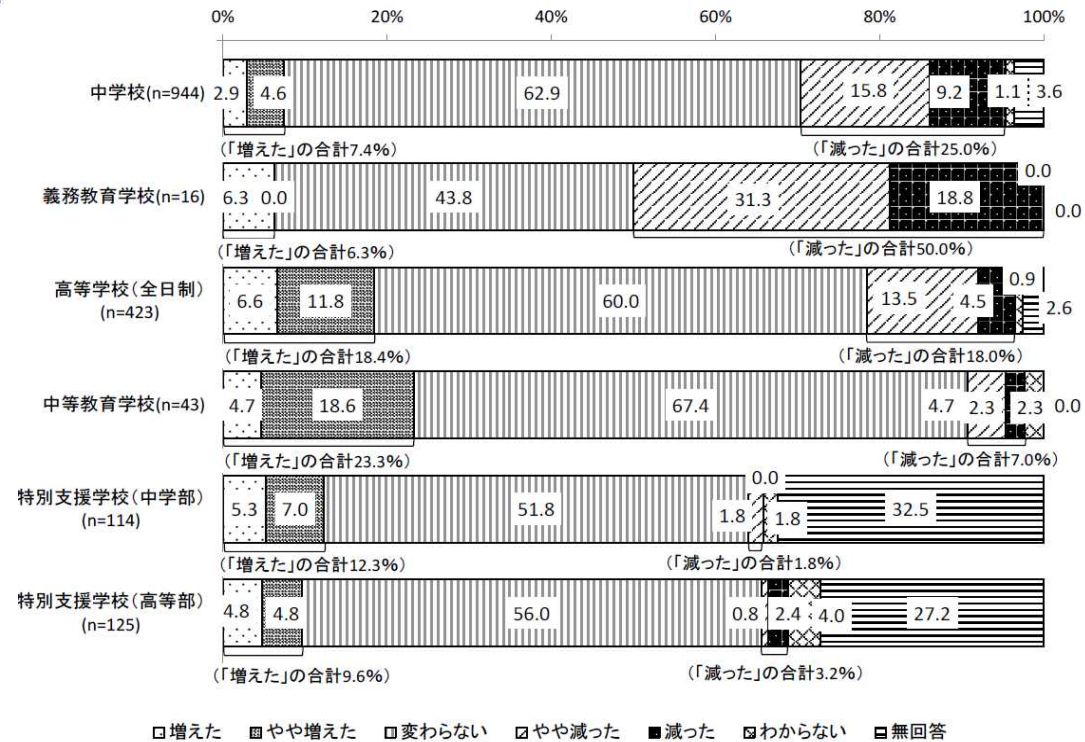
総務省行政評価局

減らない部活動数

図表 156 部活動数の推移【設置者別】



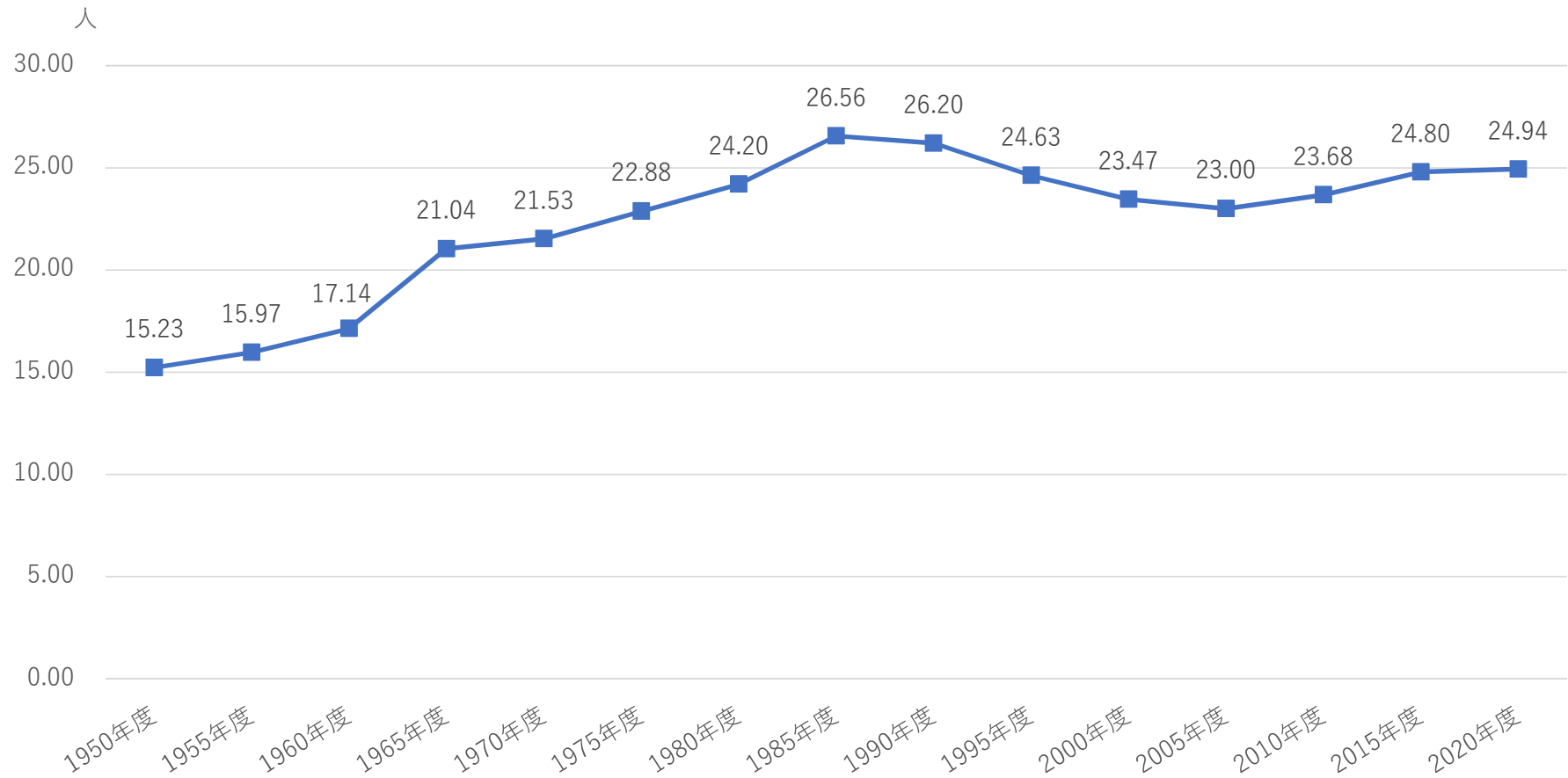
図表 157 部活動数の推移【学校種別】



中学校一人あたり教員数

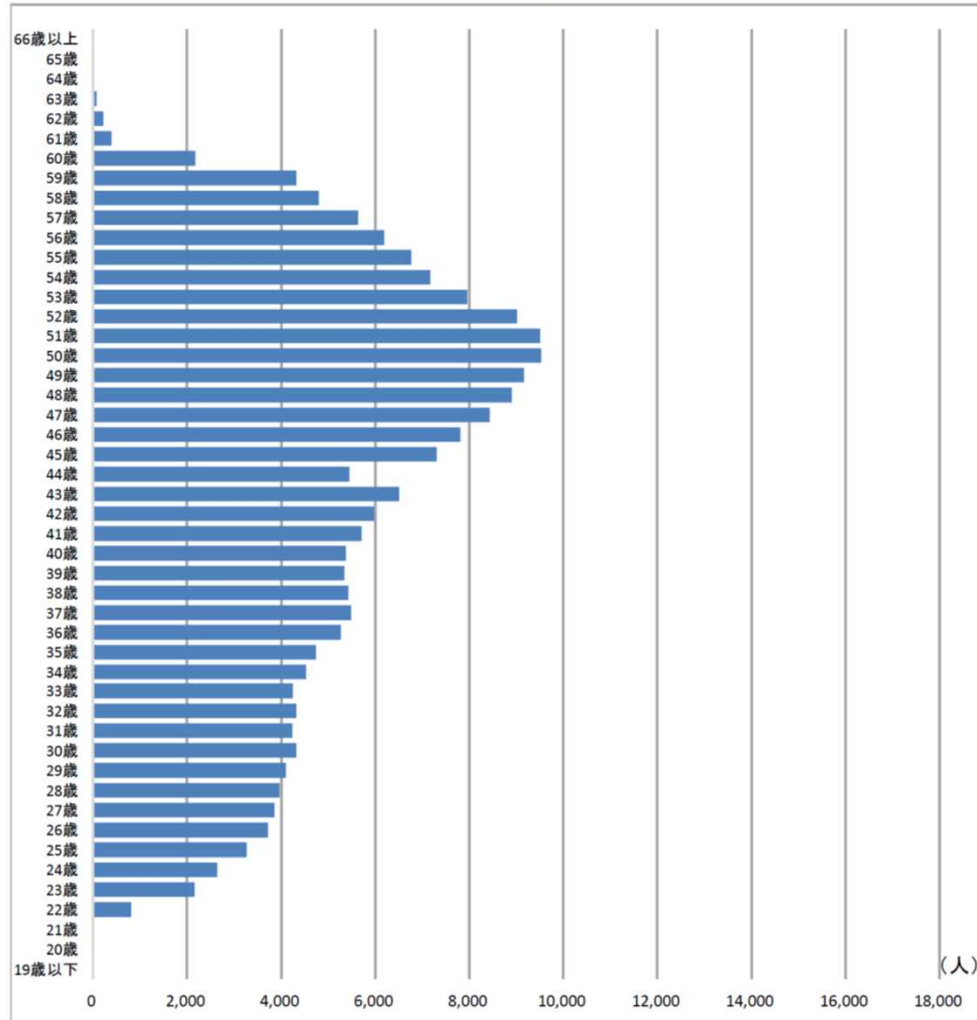
- それほど減っていないが、
- 大量退職と大量採用による「ふたこぶラクダ」化
 - 若手の急増と薄くなる中堅層とベテラン増加
- 再任用（超ベテランの増加）
- （共働き家庭の増加？）
- 若手に部活動負担が集中しやすい職場環境になっている可能性

公立中学校一校あたりの教員数の変遷

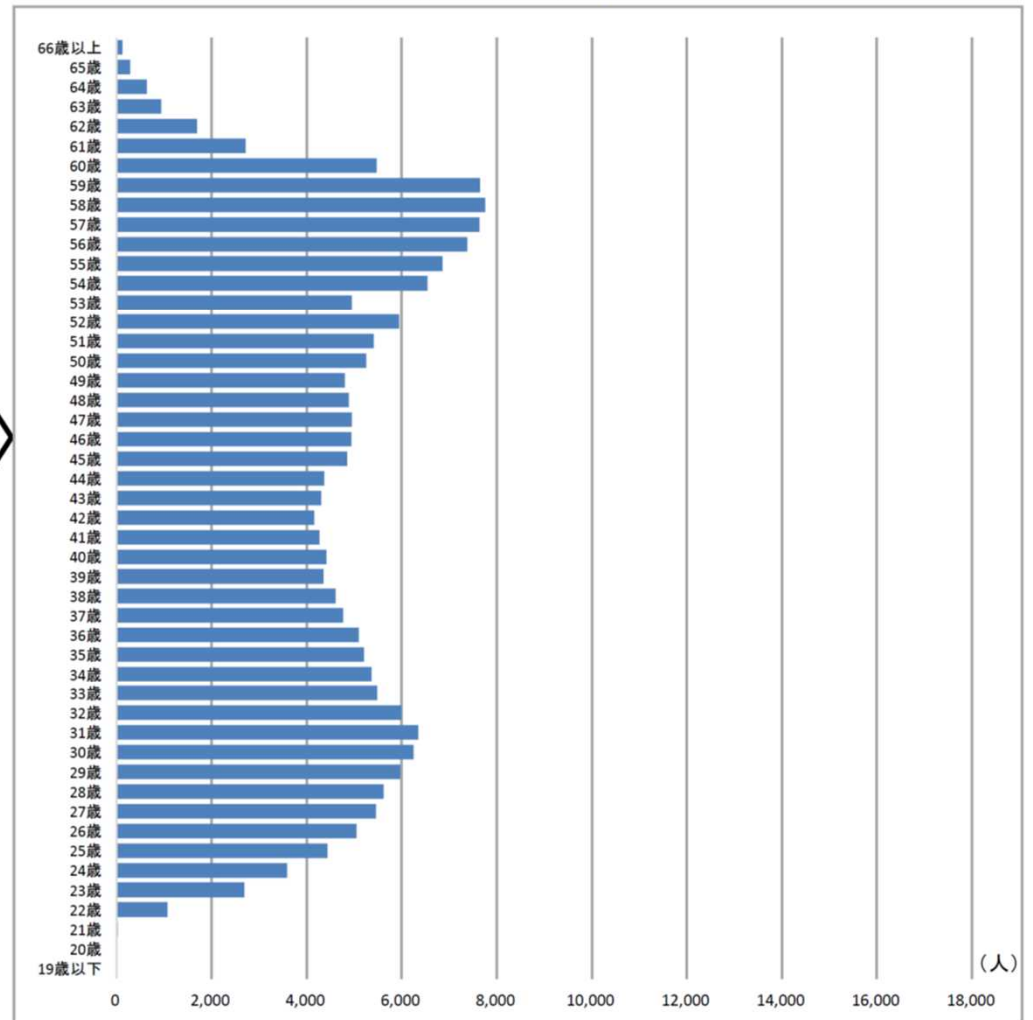


[出所] 文部科学省「学校基本調査」各年版より報告者作成。
注：本務者（常勤の再任用を含む）

公立中学校（平成22年度）



公立中学校（令和元年度）

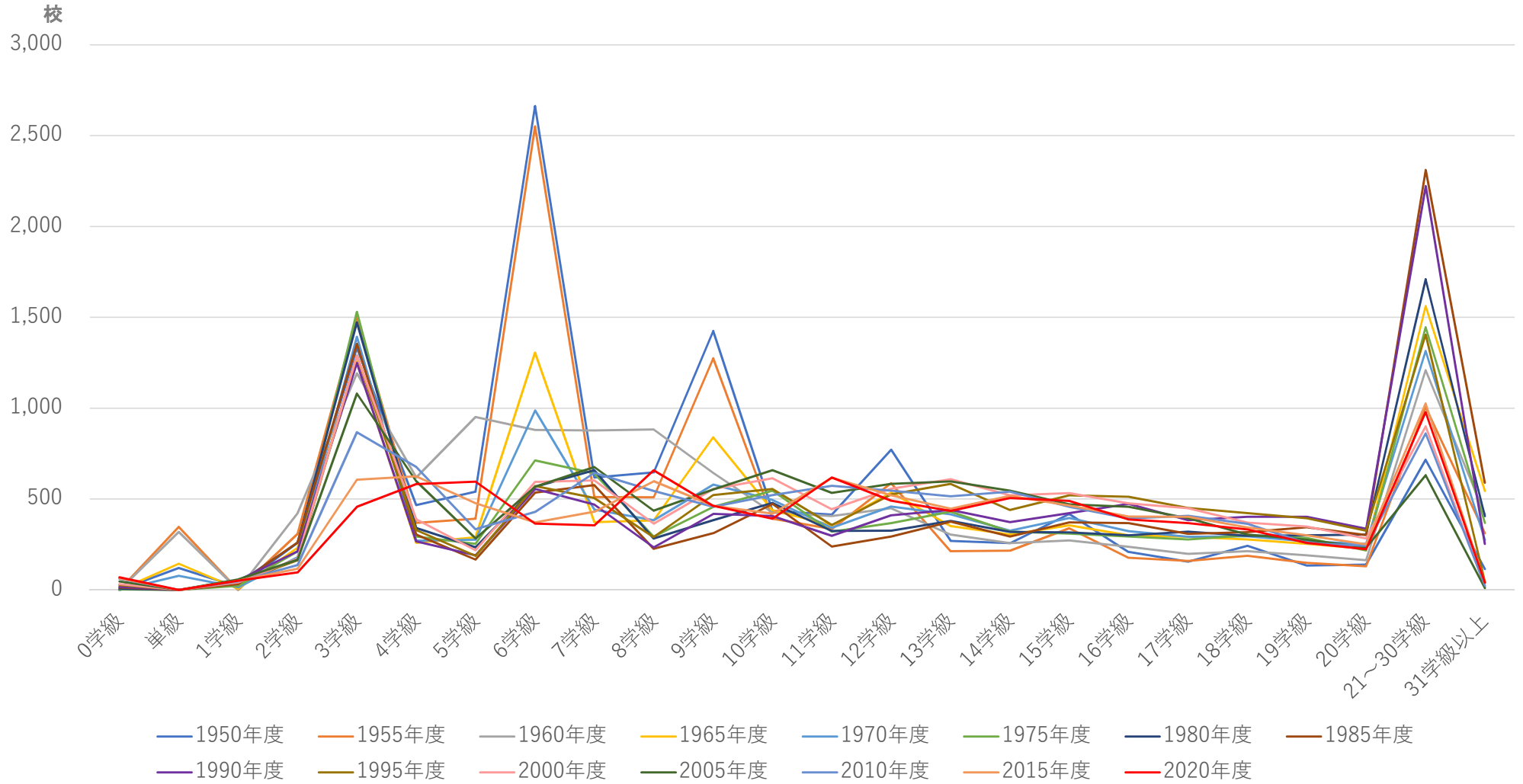


[出所] 文部科学省「学校教員統計調査（確定値）」2019年度より。

中学校の学級数

- 単級（1クラス）だけの中学校が減少
- 超大規模校（21学級以上）が減少
- 標準的な学級数の中学校が増えつつある
- おそらく学校統廃合が進んでいる
- つまり、学級数減少→統廃合を繰り返す
- よって、部活動数についての議論が生起しにくい

年度別・学級数別の中学校数推移



[出所] 文部科学省「学校基本調査」各年版より報告者作成。

教員の「アンペイドワーク」としての部活動の持続可能性

- 部活動指導員に関する議論とその反射的効果
 - 人材確保（質の保証、謝金水準、人材偏在）
 - 財源確保
 - 教員の部活動指導が事実上の「アンペイドワーク」と可視化
- 教員のボランティアな業務としてはあまりにも過大な負担
- 教員による部活動業務の持続可能性はゼロに近いと認識すべき

民業圧迫？失われたマーケット？

- 民業圧迫の観点から議論しうる
- 学校の付加的サービスとしてはあまりにも過剰

- 休日1日4時間で1人1万円（本来の教員時給換算で2500円）
- 1校に10の部活動があれば10億円（1万校×10部活）
- 土日どちらか1日部活を年間50週やるなら全国で500億円のマーケットが教員の（部活手当はあるが）事実上の無償労働で展開している

- 生徒、保護者、地域住民はフリーライド状態
- 学校・教員もマネジメントを欠如させ見直しできず

謝辞

- スライド番号3、4、5については神林寿幸氏（明星大学）のご協力を得た。
- この資料作成に際して、独立行政法人教職員支援機構調査研究プロジェクト「学校運営の行動変容を促進する要因の解明に関する調査研究プロジェクト」の成果の一部を参照した。